

(第5回) 沼田市地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

日 時

令和4年11月30日(水) 19:00~20:38

場 所

テラス沼田1階 多目的スペース

出 席 者

委 員 16名

※敬称略

・山田 良美 ・倉澤 由之 ・高田 式久 ・松井 弘樹
・中村 一喜 ・田島 護 ・角田 祐子 ・左部 ゆかり
・齋藤 照恵 ・大嶋 康 ・伊藤 智康 ・佐藤 亜貴
・地野 裕一 ・星野 盾 ・武井 秀一 ・角田 真由美

アドバイザー 1名

・櫻井 常矢

事務局 5名

・田邊 一樹 ・織田澤 清子 ・見城 俊彦 ・高橋 朋子
・角田 好夫

欠 席 者

委 員 4名

※敬称略

・川端 富夫 ・田中 耕太郎 ・安原 和宏 ・信澤 毅

次 第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
※川端委員長欠席のため、左部副委員長挨拶
- 3 協議事項 **※議事進行：左部副委員長**
 - (1) 前回までのふりかえり
 - (2) 報告書の作成
- 4 その他
 - ・協力団体への謝礼の振込日
12月16日(金) 指定口座へ
 - ・報告書の提出日等
12月14日(水) 16:00~ 15:50庁議室集合
- 5 閉 会

3 協議事項

副委員長	次第の3 協議事項(1)『前回までのふりかえり』について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	(資料「グループワーク(班別)」をもとに、前回はふりかえる)
副委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	<p>今説明していただいたとおりでいいと思うが、一通り見ていただくと、2ページ目の「支援相談窓口の一本化」、4ページ目の「コミュニティセンターのレベルアップ」と書いてあって、要するに拠点のあり方の話しである。これは、こういったコミュニティの持続可能性を考えると、拠点のあり方ってというのは、全国共通の課題として捉えている。地域づくりとかコミュニティってというのは、役所の所管でいくと総務省になるが、私が総務省で会議をするときは、公民館を所管している文部科学省に同席していただいている。拠点のあり方っていうのを問題にする意味では、沼田市はコミュニティセンターと名称を変更したが、いわゆる公民館のあり方っていうことが課題になるということで、このことは皆さんのご意見からもあったし、この後のあり方ビジョンの中でも触れられているだろうというのが1点である。</p> <p>もう1点は、一番最後のほうに出ていた情報の話しである。私も沼田に通って1年ちょっと経つが、ちょっと辛口になるが、最初の頃は、沼田市役所自身がまったく外の動きを知らないんだなと思った。行政が知らなければ、市民にはなかなか伝わっていかないので、そういった意味では、風通しの良い情報の共有というのが、より必要になってきているのかなと思う。コミュニティってというのは、比べるっていうことがすごく大事で、そんなに市民の力に差があるっていうことではないと思うので、同じような市民の皆さんが、ほかの町で色々な取組をしているっていうのを知るだけでも、かなり刺激になるかなと思う。そういう情報の収集・発信ということは、皆さんのご意見にもあったし、大事なことだと思った。</p> <p>最後にもう1点だけ、人の支援である。今回は、コーディネーターって言葉があちこちに出ている。これは前回のスタートのときにもお話ししたが、行政職員の皆さんもそうだし、あるいは民間人であっても、こういうコーディネーターとか地域づくりを支える人っていうのが、すごく大事になってきているのかなと思っている。15年くらい前のこういった会議では、だいたいお金の支援とかに話しが集中したが、今は全国アンケートをとってみても、ほとんどお金には関心はあってない。今は人、寄り添う人が欲しいというのが地域からの声なので、お金の支援はもちろんあっていいが、適切な財政支援よりも人の支援ということに皆さんも関心があるし、今回のご意見にもあるし、大事なことだと思った。</p>

	<p>以上3つが、私自身改めて読んでみて感じたことである。最初の拠点のあり方については、前回の会議で触れたかもしれないが、この建物の6階に市民活動センターっていうのがあり、私が十何年前に沼田市に通ったときに、設置に協力させてもらったが、市民活動センターの機能は、やはりコミュニティの支援とかあり方に向けて見直していくというのも一考に値する。せつかくあのような拠点、群馬県内ではあのような拠点を持っているというのは先駆的であるが、時代に合った形に見直していくことがあってもいいかなと思った。ここはちょっと皆さんのご意見にもあったが、拠点のあり方に絡めて、一言申し上げさせていただいた。</p>
副委員長	<p>続いて、協議事項(2)『報告書の作成』について、まず始めに事務局から、全体の構成を説明していただき、そのあと、1章ごとに、事務局の説明、質疑応答、櫻井アドバイザーによる補足という流れで、最終の第4章まで進めさせていただく。</p> <p>それでは事務局から、始めに全体の構成の説明・提案をお願いする。</p>
事務局	<p>（「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」の目次により、全体の構成を説明・提案する。）</p>
副委員長	<p>委員の皆さんから、何かご質問等があればお願いしたい。</p>
委員	<p>目次の第4章、新たな地域コミュニティの形成に向けた環境整備の「1 形成に向けた基本的な考え方」の(1)～(4)であるが、本文では「2 行政の支援」の中に設けていると思うが。</p>
事務局	<p>訂正させていただく。</p>
副委員長	<p>櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。</p>
アドバイザー	<p>全体を通してみると、事務局のほうでは、委員の皆さんの発言を尊重して作り上げているのかなと思った。全国をみると、話し言葉でこういう提言書を作成していたり、地方都市に行くとなまり言葉で全文表記していたり、できるだけ市民の声のもと提言されているというのを前面に出す形をとっているところが多いが、委員の皆さまの言葉を大事にして作られているんだなと思った。構成についてはこれでいいと思うし、そういったことに配慮して事務局で頑張ったのだなということを感じた。</p>
副委員長	<p>目次については、先程の意見を踏まえ、修正させていただく。</p>
副委員長	<p>「第1章 地域コミュニティのあり方ビジョン策定のねらい」について、事務局から説明・提案をお願いする。</p>
事務局	<p>（「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」により、説明・提案する。）</p>
副委員長	<p>委員の皆さんから、何かご質問等があればお願いしたい。</p>
委員	<p>事務局のほうに、修正案ということで参考に用紙を渡した。1章から4章まであり、1章についても言い換えが必要かなということ</p>

	で記載したが、あくまで私案である。皆さんのほうでおかしいという部分もあるかもしれないので、その辺も含めて確認しながら見ていただければ有り難い。
副委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	1 ページの下から二段落目「このモデル地区の積極的な取組は、～」の文末、段落の終わりである「～、沼田市地域コミュニティのあり方検討委員会を設置しました。」であるが、これはちょっとおかしい。委員の皆さんや行政の皆さん、事務局の皆さんとも共通認識を持ちたいが、このあり方ビジョンていうのはあくまでも、市長に招集かけられた私たちが、検討委員会として市長に対して提案するものだと思う。それを受けて、市行政が今後どういった取組をしていくのかという施策を打っていくのだと思う。これは、あくまでも我々検討委員会の提案であり、これを市行政が、この後どう取り上げるかっていうことは別だと思うので、そういう意味からすると、主語があくまでも「検討委員会は、～」だと思う。ですから、「～検討委員会を設置しました。」であると、市行政が設置したと思うので、ここは体裁上、「～持続可能な地域コミュニティのあり方を検討しました。」という風に閉じたほうがいいような気がする。ここは、行政の皆さん、市民の皆さんと認識を共にしたいが、あくまでも検討委員会が主語となってこの提案を考えるわけなので、設置したのは行政であると思うが、その提案を我々が行政に出していく。それをもとに、行政が施策を打っていき、その提案した中身がそのまま市の施策になるとは思っていないが、そういった意味では主語を分けたほうがいい。我々があくまでも検討したわけなので、「～設置しました。」が述語になるのはちょっと違うかなという感じがする。委員のみなさんどうでしょうか。皆さんと印象を共にしたいのだが。
委員	アドバイザーのおっしゃるとおりである。あり方検討委員会が提案していくわけなので、「～設置しました。」っていうと、市行政の言葉になってしまい違和感がある。
アドバイザー	細かい部分であるが、市当局と検討委員会の違い、役割の違いをはっきりさせたほうがいいかなと思って申し上げた。
委員	本文7行目「行政だけの力では解決できず、」であるが、これは先程提示のあった修正案のほうがよろしいと思う。 この提言書は、櫻井アドバイザーから話しがあったとおり、この検討委員会ですべてまとめて当局に提出するわけなので、そのあたりを配慮したほうがいいと思う。
事務局	「行政だけでは解決が困難であり、」という書き方のほうがいいという意見であったと思うが、委員の皆さまからのそういった声が多ければ、そのように対応させていただく。
委員	ちょっと謙虚な言い方になってしまったかなと思うが、「困難であ

	る」との言い回しのほうがいいと思う。この検討委員会で、行政は解決できないでしょと言っているような感じになってしまうので。
委員	先程、櫻井アドバイザーが話したことに帰結するが、全体的に見ると、この委員会の事務局として書いているのではなく、市の職員として今までの皆さんの意見を受けて、市側が書いているような文章に捉えられるということが、滲み出ている気がする。その部分をもう一回相談してもらって、直してもらえればいい気がする。全体的な文脈だとか、流れについてはそんなに違和感はないが、ところどころ出てくる言葉が、行政職員として問題意識を持って解決していきたいというように見えてしまっている。最初にこの報告書を見たときに、そんな感じがした。櫻井アドバイザーに言われて、意識の違いというか認識が違うのかなと感じた。
事務局	あり方検討委員会側の視点に立って、もう一度全体的に見直しさせていただきたいと思う。
副委員長	第1章については、先程の意見を踏まえ、修正させていただく。
副委員長	「第2章 なぜ今、地域コミュニティが必要なのか」について、事務局から説明・提案をお願いします。
事務局	（「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」により、説明・提案する。）
副委員長	委員の皆さんから、何かご質問等があればお願いしたい。
委員	<p>2ページの令和3年から始まったモデル地区の内容であるが、「今まで行われていた会議は、自由な発言をすることがはばかられ」まででいいと思う。この後の「早く終わりにすることが良しとされていた」の部分が引っかかる。中身がしっかりしていれば、会議自体早く終わってもいいと思う。</p> <p>続いて次のページの団体活動をめぐる課題の部分であるが、「地域で相談できる人もいないし」を削って、「地域のつながりが希薄になり、誰に相談して良いかわからない。」でいいと思う。</p> <p>暮らしをめぐる課題の部分であるが、「高齢化率の高いエリアは、昔ながらの地縁は残っているが、役の担い手は少ない。」を「～、役の担い手は少なくなっている。」にしたほうがいいと思う。これは、必ずしも少ないわけではないので。</p> <p>その下の「若い世代や移住者の多いエリアは、人と人との関わりが少なく、役の担い手も少ない。」であるが、「～、地域への関わりが少ない。」がいいと思う。役は順番が回ってくればやるが、自分たちから地域の中に入りずらいってことであると思う。</p>
副委員長	<p>これは事務局のほうで、私の地区の座談会の言葉を大事にして残してくれたものであると思う。ただそれが皆さんに公表するときはどうだろうという感じで、今意見をいただいたと思う。</p> <p>そうすれば、私の地区の座談会での意見として、事務局のほうで</p>

	<p>丁寧にもそのままの言葉で挙げてくれたと思うが、公表するときにはこのようなことも踏まえて、言い回しなどを考えるということによるしいか。</p> <p>【異論なし】</p>
副委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	<p>先程までのやり取りは、どちらの立場で書くのかという話しとすごく関わる。今の発言内容について、こっちのほうがいいんじゃないかっていう話しがあって、確かに綺麗ではあるが、素人めいていたり、乱暴な言い回しのほうが、市民の言葉だなんて感じがする。私が冒頭で、なまりだけで報告書を書く自治体があるとか、あるいは話し言葉で書いている自治体があるって言ったのは、どうしたら市民の言葉として表現できるか、市民の視点から言っている提言書になるのかって、そのことを大事にしている行政だからこそ、そうなると思う。ですから、ご指摘いただいた点はその通りであるが、そうやって整えていくとおそらく薄っぺらい、誰かが作ったなと思える提言書になってしまう感じがする。この辺は結論を導くのは難しいので、事務局で加減は考えてもらって、調整していただきたいと思う。こうやって精査していくと、平らになってしまうと言う表現をよく使うが、いかにも行政の方が作られた文章になってしまうので、あくまでも検討委員会で市民の意見を加味した内容のほうが、世論を喚起するなっていう感じがするので、もとの形のほうが私には魅力的に見えるが、ご意見ももつともだと思うので、事務局で調整いただきたい。</p> <p>その上で根本であるが、第2章のタイトルはこれでよろしいか。「地域コミュニティが必要なのか」であるが、沼田にも地域コミュニティはあるので。わかりやすく言い換えれば、なぜ地域コミュニティのことを今議論しなくてはならないのかっていうことだと思う。“必要なのか”っていう表現が、ちょっと伝わりにくいと思うので。委員の方にご提案いただきたいが、ここだけが、根本的なことであるが引かかかったかなって感じがする。そのほかは、皆さんご指摘したことを踏まえて、整理していただければと思う。</p>
副委員長	櫻井アドバイザーから提案があったが、「地域コミュニティが必要なのか」の“必要”に変わるいい言葉がないかということであるが。
委員	一番修正が少ないのは、“が必要”を抜いてしまうという方法もあるかと思う。“なぜ今”という言葉が入っているので、それでも意味合いは通ると思う。
委員	「1 沼田市の現状と課題」「2 多様化・深刻化する地域の課題」であるから、“地域コミュニティの課題”ということでは括ったほうがいいのか。
アドバイザー	色々な意見があると思うので、決議をすることは難しいと思う。

	<p>第2章と言いながら、第1章は策定の狙いで、本格的な議論が始めるのはここからなので、なぜ地域コミュニティのことを議論しなければならないのかという意味合いだと思う。課題になると、そもそも課題をなぜ議論しなければならないのかということ、どこにも書いてない感じがするので、このことを今取り上げなければいけないんだということ、ここで宣言しなければいけないと思う。その理由が、“課題”“課題”になっているだけだと思うので、そこも踏まえて後で検討いただくのではどうか。実質的には、2章からスタートである。</p> <p>先程話しがあった“が必要”だけを消してもいいかもしれない。“地域コミュニティなのか”だけでもいいような気がする。</p>
副委員長	第2章については、先程の意見を踏まえ、修正させていただく。
副委員長	「第3章 地域コミュニティの目指すべき姿」について、事務局から説明・提案をお願いします。
事務局	（「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」により、説明・提案する。）
副委員長	委員の皆さんから、何かご質問等があればお願いしたい。
委員	（5）新たな人財の発掘・育成であるが、“年齢にかかわらず”ということで文章が続いているが、女性の意見も聞きたいという意見も出ていたので、“年齢や性別にかかわらず”ということで性別を入れていただきたい。それに伴い“幅広い世代”から“広い視点”に直していただければと思う。
委員	4ページの二段落目に、広域コミュニティの話が出てくるが、最初の段落に対して、広域コミュニティのスケールでの組織形成が望まれるって出てきたところが、唐突な感じがする。“望まれる”っていう言い方ではなく、ほかの言い方で語尾を作るのか、一段落目を受けたところで、広域コミュニティのほうに話しが導かれるような書き方にするのか、ちょっと唐突だと思ったので、ご協議いただきたい。
アドバイザー	ご指摘の点は、結構飛躍があると思う。なぜ、人口減少や高齢化で徐々に弱まりを見せると、広域コミュニティを作らなければならないのかというの、ご指摘であると思う。そこは補足する文章が必要であると思う。広域にすることで、一つは担い手が少し多様になる、実際に増えるとか、人財だけではなく情報とか資源が豊富になるとか、そういうことが入って、だから広域コミュニティだっという風な文章を足していただくことを検討いただきたい。
事務局	その部分は、再度見直したい。
副委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	今回のビジョンの中で一番重要なのは、この3章であると思う。この（1）から（5）までを、どういう風に私たちが捉えればいい

のかっていうことであるが、広域コミュニティっていうのはよく分からないと思う。広いて書いてあるだけなので。この（１）から（５）までっていうのは、広域コミュニティが持つべき機能とか役割とか、この５つの条件を兼ね備えているものが、広域コミュニティだというような建て付けなのかなと読み取った。この５つの条件を兼ね備えているものが、広域コミュニティだという風に捉えると、少し整理できるかなと思う。だから、暮らしを支えるということを意識しないとだめだということ、団体間で横に繋がっていくこと、それからビジョンとか目標を作ること、話し合いを大切にする、そして（５）では、新しい人財を発掘すること、こういったことを兼ね備えていくと、沼田市が目指す広域コミュニティになるっていう捉え方をしたが、皆さんの認識がどうか、これは大事な部分でもあるので、この委員会で共通認識を持ちたい意味で投げかけをさせていただいた。

もう１点、先程ご指摘のあった上から２段落目の文末であるが、「～、地域住民や団体等が連携できる仕組みを持った組織の形成が望まれます。」とあるが、この“組織の形成”は、私は止めたほうがいいと思うし、組織を作ることが目的化してしまう。この５つの条件の中に、話し合いとか新しい人財の発掘とか書いてあるので、これを兼ね備えていなければ広域コミュニティにならないっていうことである。よくあるパターンが、行政側が財政支援策を用意すると、とりあえずこの組織を作ればお金が出るっていう感じに、いつもの行政と住民の関係に戻ってしまうので、「～連携できる仕組みづくりが求められます。」などへの修正はいかがか。「～組織の形成が望まれます。」っていうのは、他の自治体を見てきた立場から言っても、この文言は止めたほうがいい感じがする。結果として、組織ができたりなんらかの部会ができたり、それは全然いいと思うが、組織作りが目的化してしまうと、（１）から（５）までが軽んじられるケースが多いので、組織の形成と書かないほうがいいのかなと思う。

以上２点である。（１）から（５）までは、広域コミュニティのいわば条件みたいなものとして捉えるべきではないかということと、組織の形成を目的として書かないほうがいいのではないかということの２点であるが、私からの言葉は皆さんへの投げかけなので、皆さんいかがか。

委員	その下の文章にも“組織”が入っているが、そこも抜いたほうがよろしいか。
アドバイザー	結局は組織になるが、行政の皆さんは経験豊富だから分かると思うが、組織を作ってそこに補助金を充てるというのが従来手法だから、これをやめようと、中身をしっかりやろうというのが趣旨であると思うので、あえて書かないで、書かなくても組織はできてく

	<p>ると思う。委員の皆さん、いかがか。</p> <p>ここは難しいところであるが、よその自治体をみている立場からすると、ここで失敗している。組織の図を出してしまうと、それを作れば良いんだなと思ってしまう。その結果、中身を大切にしくなくなり、ことごとく多くの自治体が頓挫してしまっている。最終的に、地域側が自分たちのために組織を作るのは自由なのでそれは全く問題ないが、それをここで目的化するのはいかがでしょうかと思う。</p> <p>皆さん難しいと思うので、投げかけさせていただいて、事務局でご検討いただければと思うが、せっかくの機会なので、委員の皆さんもご意見があればお願いしたい。</p> <p>【委員からの意見なし】</p>
副委員長	第3章については、先程の意見を踏まえ、修正させていただく。
副委員長	「第4章 新たな地域コミュニティの形成に向けた環境整備」について、事務局から説明・提案をお願いする。
事務局	（「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン（案）」により、説明・提案する。）
副委員長	委員の皆さんから、何かご質問等があればお願いしたい。
委員	行政の書き方と委員会の書き方であるが、一番最後のまとめる部分で、例えば“必要であります”を“必要であると考えます”にするなど整理していただいたほうが良いと思う。いくつかそういった文書があるので、先程から話しがあるように、委員会としてまとめて報告するわけなので、そのような形にそろえていただいたほうが良いと思う。
副委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	特に私からはないが、最後の環境整備のところは、総合相談窓口の設置だとか具体的な言い方もあるので、もちろんそういう意見があったので書いてあると思うが、細かく踏み込んでいることがむしろ気になるくらいである。内容的には異論はない。
副委員長	第4章については、先程の意見を踏まえ、修正させていただく。
副委員長	第4章まで、全ての内容を確認していただいたわけだが、本日の意見を加え、修正した内容を検討委員会の意見、報告書として、市長に提出することよろしいか。
	【異論なし】
副委員長	最後に、事務局から連絡があるのでお願いしたい。
事務局	言い回しなど軽微な修正も含め、本日の委員会での議論を踏まえた修正については、委員長及び副委員長に一任させていただくことで、ご理解いただきたい。
	【異論なし】
副委員長	5回にわたって開催してきたあり方検討委員会を振り返って、一言ずつ感想をいただきたい。

委員	<p>5回を振り返って一度欠席してしまっただが、このような大事な会議に皆さんと参加させていただき、団体に帰って先輩たちに報告しながら変えていく必要もあるし、なんとなくその道も分かった気がする。それは、どんな人財がいたり、どんな素敵な素材やスタッフがいても、それをつないでくれる、つなげる、つながるという、やはり“つなぐ”っていう言葉がとても大事であるということはこの会議で実感した。自分に何ができるか分からないが、これから何かをつなげる役目になれたらと思う。</p>
委員	<p>今回あり方検討委員会に参加させていただいて、今、自分の地区で地域づくりをやっているが、色々と参考になる意見をいただき、教えていただいたものを集約していく、それをまた反映させるっていうのがとてもいいことだと思った。それと、今まで全然つながりがなかった方と、意外なつながりができ、とても楽しく、今日で終わりなのが寂しく思う。</p>
委員	<p>各種団体の方からのご意見の中で、こういう立場もあるんだなと改めて思い、自分の地区の活動を見直す場面が多々あった。こういったものを活かしながら、これからの自分の地区の地域づくりについて、教えていただきながら頑張っていければと思う。</p>
委員	<p>自分の地区でも、今検討会をやっており、本日の意見と重なる部分がある。とりあえず、一步でも二歩でもコミュニティを作っていくという意識で我々はやっており、検討委員会での結果を自分の地区での参考とさせていただき、レベルを上げていきたいと思う。我々のほうで新しいアイデア、また違った動きが出た場合には、皆さんに違う形で還元していきたいと思う。</p>
委員	<p>現在、福祉の分野に携わっているが、人と人とのつながり、あるいは市民のどんな小さなことでも、課題やニーズ、困っていること、そういった部分に、耳を傾ける重要性を改めて気づかされた。厚労省のほうでも、地域共生社会を目指すというテーマを掲げて進んでいるが、重なる部分はあると思うが、福祉の分野にもうしばらく力を注いでいきたいと思う。改めて色々な意見をうかがって、非常に勉強になった。</p>
委員	<p>こういう委員会で、ワークショップ形式でやって意見を取りまとめるというのは、事務局の立場からすると大変だったと思う。ワークショップでは、皆さんの色々な意見を聞くことができ、色々な課題について共有することができて、参加させていただきためになったと思っている。</p>
委員	<p>こんな小さな市の中のことなので、もっと自分でも色々知っているかと思ったら、知らないことがたくさんあったなと思った。これを機会に、さらにネットワークを広げて、色々な形で沼田市が元気になるように、今どうしても下ばかり向いている状況であるが、前</p>

	向きにいけるように応援していきたいと思うので、自分も携わって いければと思う。
委員	色々知らないことを学ばせていただいた。初日に、始めてモデル 地区の活動を聞いて、こんなことをしているんだなと思って、すご い感動した。あの後、市内で行われた地域づくり講演会に櫻井アド バイザーがみえて、地域づくりの話しをしていただき、お陰様で自 分の地区でも会議をすることになった。12月に3回目をやること になっている。今後どうなるかわからないが、2回やってみたがす ごく難しく、半分挫折しかかっている。これからは、モデル地区の 方の意見を聞きながら、うまく前に進んでいければと思う。検討委 員会では、自分がしてきたことを振り返りながらお話しさせてい ただいたが、所属していた団体の業務では、個人宅を回っていたので、 それって大事なことであつたと、つながりは必要であつたと思い、 また、ほかの組織との横のつながりも必要であつたと感じた。
委員	参加させていただいたときには、難しい問題すぎて、自分でも解 決できるんだろうかと思っていたが、色々な人の意見を聞いて、こ うしていけばいいんだ、ああしていけばいいんだということが勉強 になった。今までの意見を活かして、所属団体が活発に活動できる ようにしていきたい。
委員	いい意見が出せるように一生懸命考えながら参加させていただ いたが、大変に難しく、なかなかいい意見が出せず、また意見を出 したらどのように変わるのかなとか、色々考えさせられた。そんな 中でやはり、自分なりの意見であるが、問題は次世代を担う子ども たちがどのような沼田にするのか、そのために教育を一生懸命やっ てもらって、沼田でも日本でも世界でもどこでも生き抜くってい うか、そういう教育をしっかりしてもらえれば、沼田で生活してい くにあたって、チャンスはたくさんあると思う。そういうところで、 次世代を担う子どもにいい教育をしてやり、そうすれば子ども たちが地域を盛り上げてくれると思う。
委員	皆さんとワークショップをして、直接うかがった話しだとか、手 法だとか、そういったことはせつかく時間をいただいてしたことな ので、同じ仕事に携わっている人たちにも伝達をして、さらに地域 づくりに役立てていければと思う。コロナ禍で、なかなか人が集ま るのが難しい情勢ではあるが、その中でもコロナ禍だから出来ない ではなく、コロナ禍でも出来ることは何かというのを探りながら、 進めていきたいと思った。
委員	普段、地域づくりの名のもとで仕事をしているが、モデル地区の 皆さんと各種団体の皆さんの話しをうかがって、同じような課題を 抱えて皆さんやってらっしゃるといふ共感と、立場や団体が違ふと、 そういう課題もあるのかという気づきと両方向味わえた。自分が抱

	<p>えている地域の課題だけではなくて、市の課題を見られたことが勉強になったし、視点や視野が広がったと思う。皆さんがやってらっしゃるいいことを参考に、私の今後の活動に活かしていきたいと思う。</p>
委員	<p>第1回からの各地域の事例発表や、それぞれのテーブルに分かれての集約発表など大変参考になった。会議ごとに、同じテーブルと一緒にいる方も代わっていたので、色々な地域、団体の方と意見交換することができて、大変有り難く思った。事務局は、たぶんまとめるのが難しいだろうなど、振り返りを聞きながら思ったが、形にさせていただいたことに感謝申し上げます。</p>
委員	<p>皆さんと一緒に話しをさせていただいて、大変勉強になった。私が住んでいるのは台地のところなので、先行している6地区には、色々教えていただけると有り難い。</p>
委員	<p>今回提出する提言書が、この後どのような形で活かされていくかということが非常に重要だと思うが、この活動が5年後10年後その先までうまくつながっていくことも重要だと思う。5年後10年後も同じメンバーではなく、新しいメンバーが入ってきてくれるような組織運営が必要になってくると思うので、私も地元に戻って微力ながらやっていきたいと思う。引き続き皆さまにはご指導をお願いしたい。</p>
委員	<p>5回ということで、今になってみると短かった気がする。職員は市民目線で、市民の立場に立ってということで、常にそういった感じで動くようにと言っているが、今日の文章を見ていると、行政の立場に立ってしまっていることを実感させられた。今後、この報告書を基本方針的なものに育てていけたらいいかなと思っている。皆さんともこういった会議でお知り合いになれたということで、感謝申し上げます。今後、課題解決に向けて動き出したときには、モデル地区の皆さんや団体の皆さんに、お世話にならなくては進んでいかなないので、是非これを機会にいい縁という風に考えて、嫌がらずにお手伝いしていただければ有り難い。</p>
アドバイザー	<p>このビジョンの4ページと5ページは、沼田市の皆さんに誇りをもって受け取って欲しい、皆さんで確認すべきであると思う。全国の色々な自治体のアドバイザーをやらせてもらっているが、4ページと5ページの5つの項目を当初の段階で書けた自治体は、私は経験はない。沼田市が私の人生の中で初めてである。なぜ、この5つの項目が書けたのかということであるが、当初の段階から申し上げているとおり、検討委員会を始まりと位置付けるのではなくて、今頑張ってもらっている利南、池田、薄根、川田地区の4地区をまずは実践的に取り組んでいく中で、机の上の議論ありきではなくて、現場ありき、実践ありきの組立をしてきているので、事務局もイメ</p>

ーが沸いたと思う。そのため、この5つの項目がすんなり出てきたと思う。そういった意味では、沼田市のここまでの積み上げ方は誇るべきものだと思うし、この5項目を当初の段階で書けた自治体は、私は経験がない。これを受けて、市当局が基本的な方針にしたり、色々な策を練っていくと思うが、この5つの項目については是非、当局にも大事にさせていただいて、今後の展開を作っていくっていただきたいと思う。

最後になるが、こういった話しは理屈ではなく現場なので、今モデル地区で頑張っているところ、あるいは白沢・利根、それから市街地のほうも徐々に動きが出てくると思うが、またいずれかの場面でお会いする機会があるかと思うが、その際にはよろしくお願ひしたい。

副委員長

本日予定された協議事項については、これで全て終了した。事務局にお返りする。